

定期検診は全身の健康を守る
Regular Checkups Protect the General Health

増田 佳子
デンタルみつはし

抄録

日本歯科医師会が2014年に行った全国の20～70代の男女1万人を対象にした一般生活意識調査によると、一般国民の歯科疾患と全身の病気との密接な関係の認知度は76.7%となっています。そのうち、詳しく知っている割合は1～2割にとどまり、多くの場合は聞いたことがある程度であり、詳しく理解している人は少ないことが判かりました。歯周病と低体重児出産や早産の関係や、糖尿病を発症させたり悪化させる可能性が高いこと、脳梗塞の原因である動脈硬化を引き起こすことについては、6～7割の人々は全く知らないのであり、口腔内の状態が身体へ及ぼす影響への関心度は高いものの詳しくは知らない、という結果が明らかとなったわけです。

歯科疾患と全身の健康との関わりについては、今後ますます周知や理解を広げていくことが課題と考えられます。

このような中で私たち歯科医療従事者は全身の健康を守るためにどのような対応をしているら良いのでしょうか。何より顕微鏡歯科治療を通して、どのようにかかわっていけば良いのでしょうか。

そこで、

- ①自分自身の健康を守るには
 - ②顕微鏡だから伝えられる毛細血管と全身の健康について
 - ③患者さんの健康のため歯科検診・健診に通ってもらうためには
- 以上の3点について具体的にお伝えいたします。

また、人生100年時代に向けて高齢者は益々増えています。介護職の方は介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどで働いている中で、排泄の介助したり入浴させたり身の回りのケアをします。その中でどの分野の介護が一番大変ですか、と聞くと、多くの人は食事介助と答えます。もちろん着替えさせたりお風呂に入れることは腕力的には大変なのですが、食事は常に誤嚥させる危険があり、それが生命にかかわる誤嚥性肺炎につながる可能性が高いため一番緊張するのは食事の介助なのだそうです。

誤嚥を完全に防ぐことはできませんが、なるべく誤嚥を防ぐためには臼歯部があるほうが良い、と統計的にも分かっています。しっかり栄養が摂れる状態をキープするためにもどのように対応していったら良いのか、顕微鏡歯科に携わって20年経ちますが、これまでの臨床経験から学んできたことをお伝えしたいと思います。

略歴

- 1982年 栃木県立衛生福祉大学卒業
- 1982年 歯科医院勤務
- 1984年 結婚退職
- 1997年 都内歯科医院勤務
- 2002年 デンタルみつはし勤務
- 2013年 日本顕微鏡歯科学会認定歯科衛生士

所属学会

日本顕微鏡菌科学会 所属